

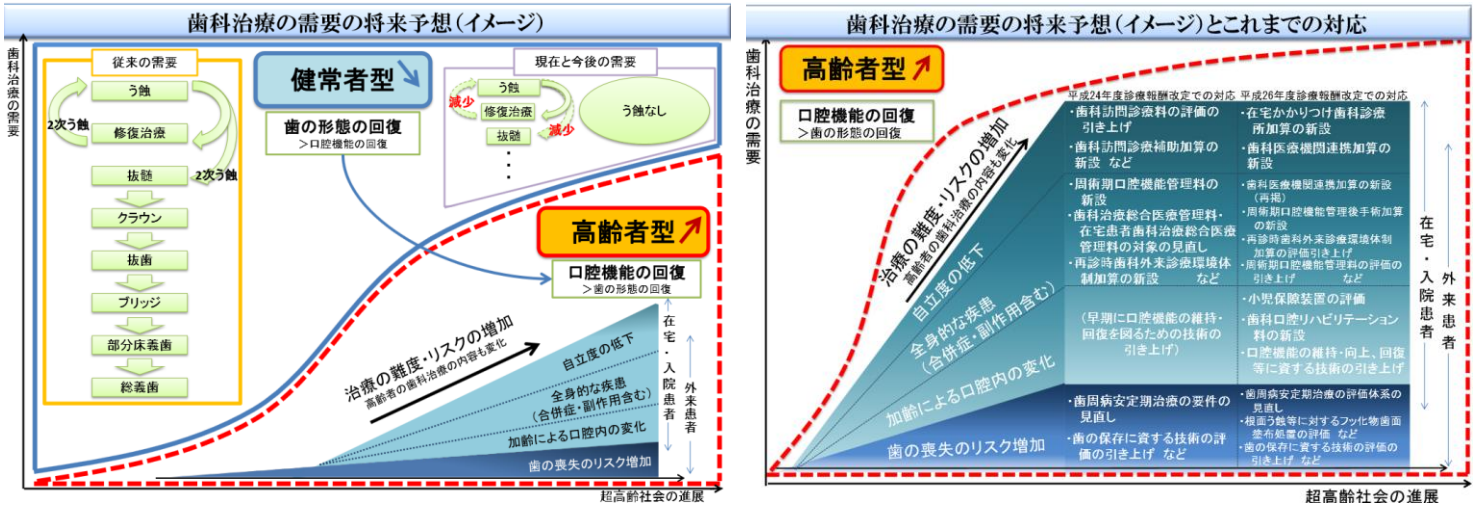
# 平成 28 年度診療報酬改定情報⑧

## 歯科医療について

まずは、歯科医療を取り巻く現状について、見ておきたいと思います。

医療費は右肩上がりに伸びてきていますが、歯科診療は実は年々減少傾向にあります。これは、子供のころから口腔ケアが進んできたため、虫歯を持っている子供が減ってきたことなどが上げられ、歯科診療のニーズが変わってきたことがあると思われます。

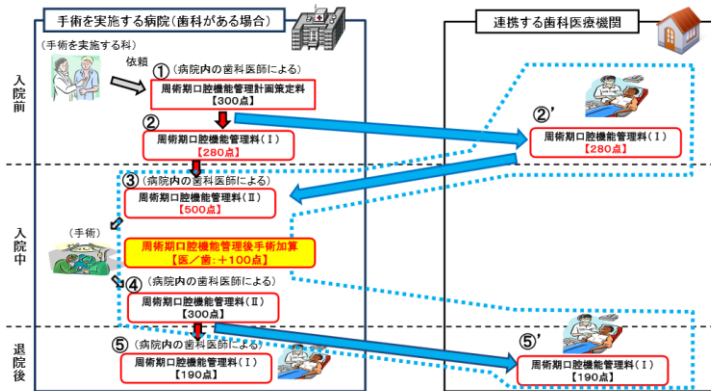
歯科診療におけるこれからの需要は、**虫歯の治療を主体とした歯科医療から、口腔機能の維持・回復の視点も含めた地域包括ケア（地域完結型医療）における歯科医療提供体制の構築へ移行している**ように思います。



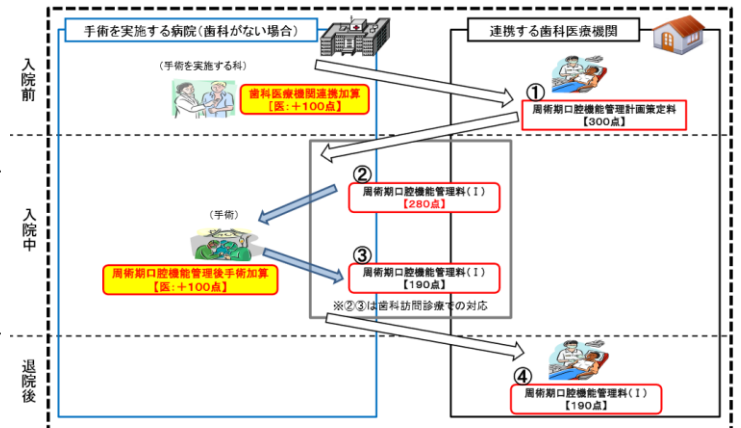
平成 27 年 7 月 22 日 中医協 歯科医療について (その 1) 13 頁・15 頁

平成 26 年度診療報酬改定の際には、『在宅医療の促進』『医療・介護の円滑な連携の推進』を重点課題として、『**かかりつけ歯科医**』に対する評価と『**周術期における口腔機能の管理等、医療機関相互の連携**』について評価され、入院中又は入所中の高齢者の口腔ケアを行う事により、誤嚥性肺炎の予防や抗生剤・抗菌剤の使用量を減らす効果があったと考えられています。このように歯科医療も「院内における治療」だけではなく、外に出て行くことが必要になってきたのではないかと思います。

周術期における口腔機能管理のイメージ①



周術期における口腔機能管理のイメージ②



平成 27 年 7 月 22 日 中医協 歯科医療について (その 1) 21 頁・22 頁

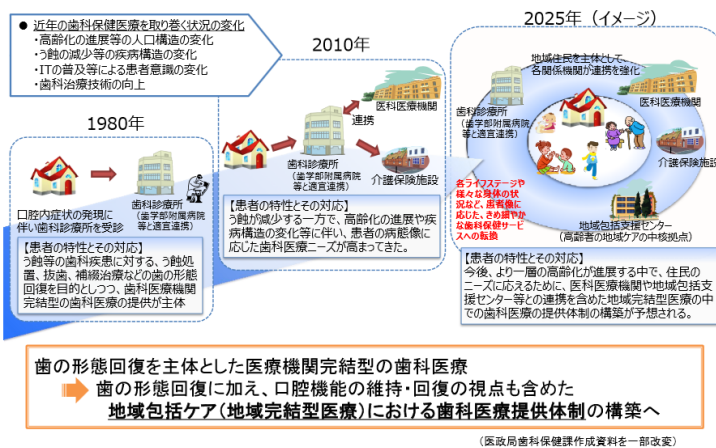
さらに、生活の質に応じた、**QOLを意識した歯科医療**も評価され、歯科矯正治療や医療材料等の技術的なものの進歩も格段に向上しています。

平成 26 年度診療報酬改定にかかる答申書附帯意見の中では、

- ① 初再診料、時間外対応加算等について、**歯科を含めて、引き続き検討**すること。
  - ② 在宅医療の適切な推進と介護保険との連携・・・**歯科訪問診療の診療時間等**
  - ③ **チーム医療の推進等**を含め、医療従事者の負担軽減措置の在り方を引き続き検討すること
- と、歯科医療に対しても、**在宅医療へ、多職種協働への視点を持つ**ように示唆されています。

再掲 歯科医療サービスの提供体制の変化と今後の展望

中医協 総-3  
27.7.22



(医政局歯科保健課作成資料を一部改変)

地域包括ケアにおける様々な連携

中医協 総-2  
27.11.11



平成 27 年 11 月 20 日 中医協 歯科医療について (その 2) 31 頁・32 頁

また、『かかりつけ歯科医』の機能としては、個々に応じた『健康教育』や『相談機能』、定期的なプロフェSSIONナルケアを基本とした**予防管理機能**も重要であるとされています。

また、『歯科医師は家族全員を対象に治療から予防までを担う「包括性」と定期健診や患者情報の管理といった「継続性」、そして患者の声を聴き丁寧に説明するという「対話性」、さらに「専門性」がバランスよく満たされている』ことが必要であると考えられています。

(出典：かかりつけ歯科医機能に関する研究、口衛雑誌、48(1):155-157、1998、抜粋)

このようなことから、かかりつけ歯科医師は『生涯を通じた切れ目のない口腔のマネジメントを実施していくことにより、口腔の健康状態が維持されること』が必要であると考えられています。

細かな歯科手術や治療法については、今後の改定の動向を見ていくことが必要だと思われませんが、今、いえることは、『地域包括ケアシステムの中で、歯科医療は重要な立ち位置にいるのではないか』というところで、『地域(院外)に出て行くこと』も必要になるのではないかということです。

#### <参考資料>

歯科医療について(その1)

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000092345.pdf>

歯科医療について(その2)

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000104686.pdf>